

JA だより



—自然のめぐもりと暮らしたくて—



謹賀新年



新年を迎えて

しずない農業協同組合代表理事組合長 片岡 禹雄



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

組合員の皆様には、ご家族とともにご健勝で新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

政権交代後の今日の経済・社会情勢は、安部首相の打ち出した日本経済再生に向けた大胆な金融緩和・大規模な財政出動・産業競争力の強化の「3本の矢」を掲げた「アベノミクス戦略」は、これまでのところ円高是正、株価上昇などで一定の成果を出しています。

ただ世界規模での人口増加、干ばつなどによる穀物の不作など国際市場での価格動向が不透明な中で、円高により輸入品価格が上昇

していることから飼肥料・原油などの生産資材や食料品価格が高騰し、中小企業や農業経営、国民生活を圧迫しています。

国内の農業は、少子高齢化による急速な人口減少期を迎え、農家戸数の減少で中山間地域をはじめとする地方社会の経営基盤は弱体化し、多面的機能を有する農村社会が崩壊しかねない危機的状况にあります。

このため、国内の農業産出額、戸別農業所得は長期的に減少傾向にあります。

更にTPP交渉参加は、関税撤廃で国内農業に大きな打撃を与え、規制緩和などを通じて、国の姿を変えかねない非常に危険な側面を持つています。

昨年11月の交渉参加12カ国間の協議では、農産物の重要品目をはじめ知的財産や医薬品、投資など主要な部分で対立点が残り、年内受結は見送られたものの予断を許さない状況が続いています。

昨年暮れの政府は、TPP参加

対策として、安部政権の成長戦略である「攻めの農林水産業」を柱に「農業・農村所得倍増」の目標を掲げ、六次産業化を軸に担い手への農地集積や輸出促進を目指すとしています。

また、経営所得安定対策や米の生産調整の見直しなど新たな農政改革を発表したが、全容が見えない中で、生産現場では不安が広まっています。

今後は、生産者が意欲を持って取り組めるような仕組みを確立していくことが重要となって参ります。

昨年の地域農業は、年明け早々から近年にない暴風に見舞われ、住宅・厩舎などの建物及び施設ハウスに大きな被害を受けました。

また、その後の度重なる台風、長雨に加え、秋の収穫期以降の11月、12月に至っても突風が吹き荒れたことから新たな被害の発生が心配されたところでありました。

幸いにして、収穫期の天候も比較的安定に推移したことから各作物とも総じて豊穰の秋を迎えることができました。

しかしながら改めて地球規模での温暖化現象が進んでいることを

実感させられた一年でありました。

地域の基幹作目の取り扱いについては、各作物とも厳しい環境下の中、個々での創意工夫と更に各振興会を中心に「安全・安心・良品質」確保に取り組んできた結果、全体の取り扱いで当初計画を大幅に上回る成果となりました。各位のご苦労に敬意を申し上げます。

また、昨年は被害ハウスの復旧に多大なご協力を頂きました。若菜青年部の皆様には、改めて感謝とお礼を申し上げます。

次に各作物目について申し述べます。

水稲は、全道作況指数105、日高104の3年連続の豊作で計画対比2180万円増の取り扱いとなりました。

ミニトマトを中心とした青果は、北日本（東北・北海道）の長雨、8月の猛暑で収量減と消費低迷が心配されたところですが、ブランド品として定着のミニトマト「太陽の瞳」については、春先の出荷期以降も高値を維持できたことから前年の7億1000万円を上回る7億5000万円と過去最高の取り扱いとなりました。

酪農は、前年比で乳価(kg単価)

が上昇しましたが、夏の猛暑の影響を受け、出荷乳量は減少しました。

しかしながら当地区は、管内一の乳質を維持していることから成分差額が乳価を更に押し上げ、計画対比で約190万円の増加となる見込みであります。

黒毛和牛は、素牛産地としての評価を高めるため生産組合員一丸となった素牛づくりを進めております。

国内経済不安による消費減退などで枝肉価格の低下が心配されたところですが、昨年の黒毛市場は、素牛の不足感から活況を呈しました。

本年度（平成26年1月末）は、前年度の4億2800万円を超える4億7000万円の取り扱い見込みであります。

軽種馬は、国内経済不況による地方競馬場の相次ぐ廃止、産地間の競合で販売不振、価格低迷が続く、生産農家経営は厳しさを増しております。このため、飼養戸数及び頭数も減少傾向にあります。

昨年の市場販売頭数及び販売額は、275頭で22億1000万円、前年比3頭減で、1億560

0万円の増加となりました。

ホツカイドウ競馬の開催結果は各公営競技で厳しい情勢が続いている中であって、インターネットや電話による馬券発売が大きく伸びたことから発売額は、前年対比16.8%、計画対比を9.9%上回る140億1700万円と2000年以来13年ぶりの高い水準となりました。また、単年度収支においても1991年以来22年ぶりに黒字となる見込みであります。開催期間中、各振興会会員をはじめ、関係者と地域の皆様が一丸となつてご支援頂いた賜物と深く感謝をし、お礼を申し上げます。本年も皆様をはじめ、ご家族にとりまして実り多い良い年でありますようご祈念申し上げ、新年の挨拶と致します。



謹んで新年のご祝詞を申し上げます

代表理事組合長

片岡 禹雄

副組合長

西村 和夫

常務理事

千葉 利一

理事

荒木 孝

伊藤 佳幸

小倉 正信

片岡 博

谷岡 康成

泊岡 雅則

中道 寿幸

信用担当理事
兼金融部長

前田 裕志

代表監事

渡辺 隆

監事

太田 勝之

山口 修二

管理部長

山岸 剛

経営融資部長

兼田 由和

営農部長

荒谷 昭二

経済部長

樺田 文明

外職員一同



平成26年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会会長 飛田 稔章



組合員ならびにJA役職員の皆様方には、希望に満ちた平成26年の新春を迎えられますことを心よりお慶び申し上げます。

昨年の北海道農業は、天候不順により一部地域で農作業や生育の遅れが生じ、台風や大雨などの被害に見舞われました。そのような中各種課題を克服しながら、一年間の営農にご尽力されたことに対して、改めて敬意を表します。

平成25年は、国内外ともまさに激動の年でありました。

TPP交渉につきましては、3月の交渉参加表明以降交渉参加反対のもとで、関係機関・団体と連携を図りながら、各種運動を展開致しました。かねてより懸念していた通り、情報開示が極めて不十

分な中、秘密裏に交渉が進行し、予断を許さない不透明な状況が続いておりますが、自民党ならびに衆・参農林水産委員会の決議を順守し、状況によっては脱退も辞さない覚悟のもと、それぞれの国の事情に充分配慮した対応がなされるよう政府・与党への強力な働きかけと併せ、国民世論形成に向け、粘り強い運動を展開していく必要があります。

先般、政府は農政の柱のひとつである米政策を大きく転換し、それに伴い各種助成金体系や経営所得安定対策の見直し、日本型直接支払制度の創設などがなされました。短兵急な政策転換に対して、生産現場では不安と混乱が渦巻いておりますが、改めて生産現場における取り組み状況を十分検証しながら、生産者が意欲と将来展望を持つて経営展開ができるよう一層実効性のある仕組みを確立していくことが重要であります。

また、政府は成長戦略の実現に向けて、農業・JA改革を課題のひとつに取り上げ、産業競争力会議や規制改革会議などにおいて、

関連する議論を行っております。これら規制改革の動きに関しては、農業の役割や生産現場の実態に関する基本的な認識が十分でないことに大きな原因があり、北海道のような農業専業地帯の実情やJAグループの取り組み状況などを十分踏まえた議論がなされ、本道農業の持続的発展に資するような政策が確立されるよう働きかけを強化していく必要があります。

平成24年11月に開催した第27回JA北海道大会において「持続的な北海道農業の実現」と「次代を担う協同の実践」について決議致しました。

平成26年度は実践2年目にあたりますが、時代の変化を踏まえた中で、JAグループの組織・事業機能の充実強化に向けた自らの取り組みを進めつつ、一般消費者に対する情報発信を行いながら、本道農業ならびにJAの強力な応援団づくりを進めていくことが重要であります。

国内外の情勢がめまぐるしく変化している昨今でありますが、再度足元を見つめ直し、生産者の方々をはじめJAグループ関係者の意志と知恵を結集した中で、各種課題を乗り越えていくという強い信念と実行力が求められています。

現在の地域農業やJAの基盤を築いた先人もその時々時代の背景のもとで、様々な困難に立ち向かってきたものと存じます。当然のことながらJA・連合会も「組合員の営農と生活を守り向上させる」という目的を踏まえ、最大限の努力をしていかなければなりません。

日本の「和食」がユネスコ(国際教育科学文化機関)の世界無形文化遺産に登録されました。日本の食文化の素晴らしさが世界的にも認知され、また、それは素材である我が国の農畜産物が評価されたといっても過言ではなく、日本の食料供給基地である北海道の果たす役割も極めて大きなものがあると存じます。国民の命に直結する農業は、その役割・重要性は将来にわたり引き継いでいくべき重要な文化でもあります。

今年の干支は、午年です。予断を許さない情勢が続いておりますが、馬のごとく力強く、また、颯爽と駆け抜けていく気概を持って頑張りましょう。

結びになりますが、本年が天候に恵まれ実りの多い年となりますよう、併せて北海道農業ならびにJAグループ北海道の一層の発展を心よりご祈念申し上げます。新年にあたってのご挨拶と致します。

新年にあたって

日高農業改良普及センター 所長 山黒 良寛



新年、明けましておめでとうございませう。

生産者の皆様には、日頃より普及活動に對しまして、ご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

昨年は、春先からの低温で、耕起作業の遅れや初期生育の停滞が見られ、出来秋に向けて先行きが不安視されるスタートとなりました。

しかし、その後の好天と適切な管理作業により、多くの作物で生育は回復し、総じて平年を上回る年となりました。

これもひとえに基本技術の励行、適正な肥培管理はもとより生産者皆様の高い営農技術の賜物と思っております。

品目別に見ますと水稲は移植開始がやや遅れはしましたが、移植後は分けつの発生が良好となり、開花期間が高温に経過したことから稔実歩合は平年より高くなりました。作況指数も104と高収量となり、一部で腹白米などの発生がみられましたが、高品質米の出荷量が多くなりました。

牧草の一番草では、収穫開始から終了まで順調に推移し、収量は平年並みで乾燥調整も順調に進み、良質な乾牧草が収穫され、サイレージ品質もやや良となりました。二番草は、高温と降雨で草丈は平年より少し長めとなったものの、やや徒長傾向で生育し、収穫作業も降雨の影響で停滞したことから収量は平年を若干下回りました。サイレージ用とうもろこしは、

耕起作業の遅れと低温の影響で出芽期は4日の遅れとなりました。その後生育は回復し、黄熟期は平年並で収穫期間は降雨が少なく、収穫作業は平年より5〜6日早く終了しました。草丈、稈長は平年より高く、登熟も順調で総重は平年並、乾物率はやや良でありまし



たが、雌穂重が少なく、TDN収量はやや不良となりました。

野菜では、主力品目であるミニトマトの初期生育の停滞から出荷開始が遅れました。その後、果実肥大と品質が良好となり価格も高値で取引され、取扱額が過去最高となる約7億5000万円を記録しました。

ほうれん草などの葉菜類は、4月〜5月は低温で推移したものの作業・生育は順調で、価格も高値で推移しました。夏場は高温により品質の低下が見られました。近年はこのような気象経過が多く、立ち枯れ病の発生が増加傾向にあります。

黒毛和牛では、素牛の出荷頭数が前年よりやや減少しましたが、素牛価格は高値安定で推移し、販売金額は目標金額を大きく上回りました。

地域農業を支える軽種馬は、景気回復の兆しが見える中でも依然厳しい状況にあります。市場での売却率は昨年に引き続き回復基調にあります。

また、ホッカイドウ競馬の発売金額も一昨年同様に実績を伸ばし、13年ぶりに140億円を超える高水準となりました。

しかし、PPP交渉の受結は年

を越し、新年早々に行われることが想定されますが、国際的な農業情勢から見ても日本農業は依然厳しい状況が続くことに間違いはありません。

当普及センターと致しましても引き続き、強い草づくりから軽種馬の構造改革を推進します。同時に野菜や黒毛和牛の良質生産に向けた振興を強化し、経営の複合化や転換など経営状況の見直しを図れる産地形成を目指し生産者・関係機関の皆様と共同しながら進めていきます。更に生産者と消費者が安心、安全な農畜産物でつながる六次産業化の推進やGAP認証に向けた活動支援などあらゆる場面を通して、生産者皆様の所得確保と地域振興に向けて活動して参ります。

また、担い手の確保・育成、法人の設立や運営支援を通し、生産者皆様のお力を借りながら地域に人が残る農業の構築を図っていきます。

どうか皆様におかれましても、今一度生産技術や経営の見直しをして頂き、本年が午年というまさに将来の展望を切り開く飛躍の年となりますことを祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

新年に向けて

J A しずない女性部部長 木田 正子



新年明けましておめでとございます。
組合員、各関係機関の皆様にお

かれましては、新たな年をご家族
お揃いで健やかに迎えのことと
お慶び申し上げます。

昨年は、新ひだか町においても
竜巻が発生し、春先の低温や夏場
の高温など自然と共存している農
家にとっては、不安の多い年では
ありましたが、創意工夫すること
で、平年の作柄を確保することが
できました。

また、札幌市で行われた、TPP
交渉参加に抗議し即時脱退を求め
る北海道総決起大会」に参加致し
ましたが、この国民の想いが本当
に政府に届いているのだろうか、
減反政策の見直しについても農家



を切り捨てようとしているのでは
ないかと不安でなりません。

女性部活動では、一年間多くの
活動を通して部員間の交流を行
いました。

2年に一度の研修旅行では十勝
方面へ赴き、そば打ち体験やアイ
スクリーム作り、ばんえい競馬の
見学と美味しい楽しい2日間を過
ごすことができました。

しずない農業まつりでは、好天
に恵まれたこともあり、大勢のお
客様にご来場頂き、そば、かぼち
やることもに売し、売上を伸
ばすことができました。

A i b a 祭では、まだ農繁期で
ある中、多くの女性部員の参加が
あり、レースでも世間話でも賑や
かで楽しい交流の場となりました。

このような活動を通して、更に
女性部活動の活発化を図っていけ
るよう努めて参ります。

本年も組合員、各関係機関の皆
様や女性部員のご協力、ご支援を
お願い致し、実り多き一年となる
ことをご祈念し、新年のご挨拶と
させていただきます。

新年を迎えて

J A しずない青年部部長 不動 達也



新年明けましておめでとござ
います。

組合員、各関係機関の皆様にお
かれましては、益々ご健勝のこと
とお慶び申し上げます。

昨年の青年部活動は、しずない
農業まつりへの出店、ハロウィン
については、子どもたちや保護者
の方々をはじめ多くの皆様にご来
場頂き、地域のイベントとして、
認識されていることを実感するこ
とができました。

また、新たな試みとして、小学生
を対象に特産品のミニトマトを教
材に食育出前授業を実施しました。

苗の定植から芽かきと芯止め、
そして、収穫までの指導を青年部
員で行いましたが、不慣れな部分
も多く、決して上手な指導ではな



ったことと思いますが、無事に収穫
までを終えることができました。

その中で、私をはじめとした青年
部員がなにより嬉しかったこと
が、子どもたちが真剣に取り組ん
でいる姿であり、今後も子どもたち
に「食と農業」について、学んで
もらえるよう青年部員一同で協力し
合い、地域に根付いた活動となるよ
う頑張っていきたいと思えます。

日胆地区農協青年部協議会は、
昨年設立50周年を迎え、開催され
た記念式典と祝賀会には、当 J A
青年部からも多くの青年部員が出
席しました。

記念式典では、協議会のこれま
でのあゆみを振り返る映像の上映、
祝賀会では、大勢の盟友と交流を
深めることができ、非常に有意義
な時間を過ごすことができました。

今後とも日胆地区での活動を通し
て、多くの盟友との交流を大切に
していきたいと考えています。

本年も組合員の皆様をはじめ、
各関係機関の皆様にとりまして、
良い一年となりますことをご祈念
申し上げます、新年のご挨拶と致しま
す。

より良い酪農経営を目指して

酪農講習会が行われる

11月15日、静内酪農振興会（会長 小池孝義 会員21名）主催で「工サの管理」をテーマに「酪農講習会」が行われ、会員11名をはじめ各農業関係機関から34名の参加者がありました。

本講習会では、酪農経営のコンサルタントとして第一人者であるきくち酪農コンサルティング(株)代表取締役の菊地実氏を講師として招き、現地巡回視察とその視察をもとにした講義が行われました。

午前中に行った現地巡回視察では、浦和地区の小倉正信氏農場と東別地区の岡本勇志氏農場を視察し、給餌作業や牛舎作業などに関する聞き取りが行われ、それぞれの農場で改善すべき点の指導がありました。

午後からは、その指導を更に深く掘り下げた内容で講義が進められ、牛舎内環境の改善点や給餌飼料の量という本講習会のテーマである「工サの管理」に関する具体的な指導やアドバイスが行われました。

また、講習会後に行われた懇親会でも菊地氏に対して経営に関する質問、また参加者同士での意見交換が活発に行われていました。



菊地実氏（写真左）が飼料に関するアドバイスを小倉正信氏（写真中央）が受けています



経営をより良い方向へと皆さん真剣です

（営農部生産課 遠藤正樹）

理事会報告

11月理事会（25日）

1. 融資業務対処方針の見直しについて
2. 対策農家の新規投資について
3. 「重要な運用方針及びリスク管理方針」の制定について
4. 規定類の改定(案)について
5. 中央会監査の指摘事項に対する回答について
6. 年末手当の支給について



静内農業青色自主申告会からのお知らせ

源泉所得税の納期特例納付期日について

源泉所得税の納期特例納付期日が以下の通りとなっておりますので、お知らせ致します。

納付税額が0円の場合にも納付書を浦河税務署へ提出する必要があるため、提出がない場合には、専従者給与及びパート賃金が費用として認められない場合があります。

また、平成25年分の所得税からは復興特別所得税が導入されておりますので、年末調整等の際には、税務署から送付されております『平成25年分 年末調整の仕方』の内容をよくご確認くださいと思います。

納付期日 平成26年1月20日(月)

問い合わせ先

静内農業青色自主申告会事務局（営農部営農課）
TEL 0146-42-1051 FAX 0146-42-7034



1991年以来22年ぶりに単年度収支で黒字の見込みが高くなりました

11月14日、「道営記念」を最後に平成25年度のホッカイドウ競馬が終了しました。

道営記念では、スタートで勢いがつかず馬群の最後方から更に5馬身程後ろを追走していたレオニダスが3コーナー手前から進出を開始し、直線では一完歩一完歩力強い豪快な差し切り勝ちを決め、最終日に花を添えました。

今年度のホッカイドウ競馬は4日24日から開催が始まり、途中濃霧などの影響により10競走が中止、また、台風による開催中止が1日あったため、全79日間の開催となりました。

このように競走数、開催日数とも計画を下回る状況となる中インターネットでの発売が好調だったことから140億1,743万400円(計画対比109.86%)の発売金額が達成され、22年ぶりに単年度収支で黒字となる見込みが高くなりました。

また、7回開催したA i b a祭では、多くの方にご来場頂き、誠にありがとうございました。そのご協力の結果、右の表の通り、毎回計画を大きく上回る発売金額を達成することができました。

A i b a祭開催日7日間を除いたA i b a静内

での平均発売金額が約108万円だったことから皆さんのご協力とその事業効果の大きさが伺える結果となりました。

ホッカイドウ競馬は、馬産地日高にとって極めて重要な産業の一つです。この産業を更に盛り上げていくために来年も一人でも多くの方にご来場頂きたいと思っておりますので、宜しくお願いします。

● A i b a 祭馬券発売金額一覧

開催月日	発売金額	計画対比
5月8日	2,316,000円	286.28%
6月5日	2,587,000円	259.74%
7月10日	2,501,400円	309.20%
8月7日	2,682,600円	331.59%
9月10日	2,922,400円	419.28%
10月15日	2,933,400円	420.86%
11月6日	3,231,500円	399.44%
合計	19,174,300円	

全国的に素牛が不足している状況が続いており、11月市場、12月市場ともに購入価格は高値で推移しております。12月市場では、東別地区の上野正恵さんが販売した去勢牛が、今年度販売された素牛の最高価格を更新しました。(※取引市場については、安平町・ホクレン南北海道市場でのもの。)

黒毛和牛素牛市場販売成績

(平成25年11月市場~12月市場)

11月市場 (11月6日開催)

販売頭数 75頭 (去勢 45頭 めす 30頭)
 販売金額 36,824,550円 (去勢 20,555,850円 めす 16,268,700円)
 平均価格 490,994円 (去勢 456,797円 めす 542,290円)
 最高価格 去勢 745,500円 (東別地区 上野正恵さん販売)
 めす 611,100円 (田原地区 和田司さん販売)

12月市場 (12月5日開催)

販売頭数 78頭 (去勢 55頭 めす 23頭)
 販売金額 44,612,400円 (去勢 32,660,250円 めす 11,952,150円)
 平均価格 571,954円 (去勢 593,823円 めす 519,659円)
 最高価格 去勢 817,950円 (東別地区 上野正恵さん販売)
 めす 627,900円 (田原地区 和田司さん販売)